

いた教員も少なくなかったとも言われます。「学習障害」は知的障害を伴わないということを前提としていて、知的障害とは異なる障害です。先程も触れたように、やり方次第で分かるようになる、あるいは、数段分かるようになって世界が違って見える、というようなこともあるのです。図1のように、学習困難（学習不振）には、さまざまな原因・背景があります。

昨今では、子どもの貧困についての問題意識が高まっていますが、当然、この環境的要因も学習困難に影響を与えます。様々な心理的な葛藤を多く抱えている子どももまた、学習に集中することが難しく、学習不振につながっていくでしょう。

また、ASDやAD/HDの子どもで、LD（学習障害）を併せもっている子どもも少なくありません。それぞれの特性と学習障害の特性とが入り混じっている場合があるのです。たとえば、AD/HDの不注意の特性が本を読む際に「飛ばし読み」（読字分野）になったり、せっかちの衝動性が字を書く際に「線をはみ出したり汚い字になったり」（書字分野）ということもあるでしょう。また*発達性協調運動障害があると、目から入った文字（情報）を手が上手く書けなかったり運べなかったりするのです。学習障害に直接影響する要因（併発する発達障害）については、矢印を入れてあります。

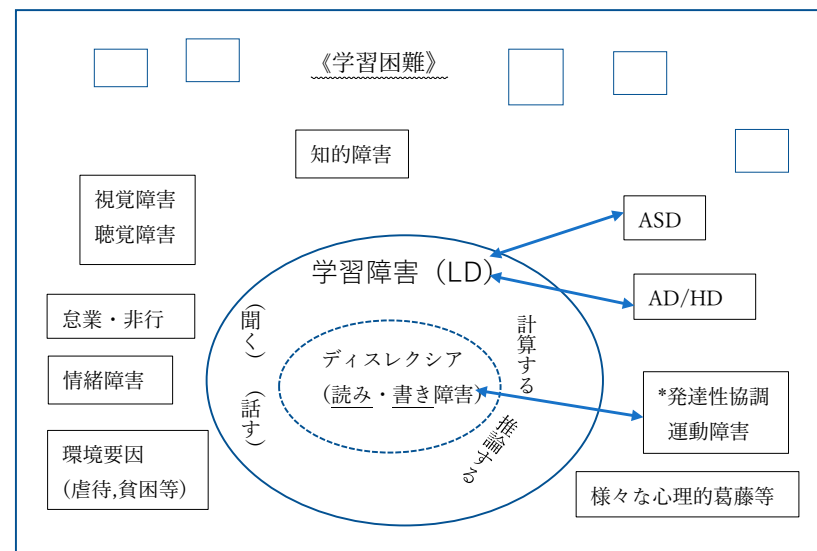


図1：文献1 p.89を参考に作図

*発達性協調運動障害：たとえば「物を落とす、または物にぶつかる」等の不器用、「物をつかむ、はさみや刃物を使う、書字、自転車に乗る」等の運動技能の遂行における遅さと不正確さとして現れる。

学習障害を知ろう！

さて、図1の学習障害（LD）の中核のところに「ディスレクシア（読み・書き障害）」とありますが、これは、ギリシャ語の「できない」（dys）という言葉と「読む」（lexia）が複合した単語で、直訳すると「**読字障害**」（Dyslexia）ということになります。しかし現実には「**書字**」にもつまづきやすいことから、「**読み書き障害**」と呼ばれることもあります。

学習障害（LD）の約8割はディスレクシアであるとも言われています（文献1 p.88）。

教育現場では、**(1) 聞く、(2) 話す、(3) 読む、(4) 書く、(5) 計算する、(6) 推論する** という**6つの分類で学習障害**を捉えていて、これらにしたがって文部科学省あるいは各自治体独自のチェックリストが作成されています。特別支援教室では、それらの結果を参考に、支援計画

改めて発達障害を考える その4

— 置いてきぼりの「学習障害」 —

臨床心理士・公認心理師

森 マミ

認知度の低い学習障害

発達障害の中でいちばん認知度が低く、学校の先生さえあまり理解していないのが「学習障害（Learning Disorders）」なのではないかと思います。“置いてきぼり”の障害です。「障害」というより、**学び方（習得の仕方）の「違い」**だとも言われます。

DSM*- IVまでは、「学習障害」には、**(1) 読字障害、(2) 書字障害、(3) 算数障害の3種類があると把握されていました。**

DSM*- 5では、「**限局性学習障害（Specific Learning Disorder）**」と改名されました。学校現場でこの名称を使う人は今のところほとんどいませんが、「限局」という語が学習障害をよく表現していると思います。「限局」とは、ごく特定の、範囲の限られたという意味です。「学習の中である特定の苦手な分野がある」と理解しても良いか、と思います。

* DSM…アメリカ精神医学会による「精神障害の診断と統計マニュアル」で、WHOによるICDと共に世界的に広く用いられている心の病気に関する診断基準。

《LDの意味は以下のように変わってきました》

Learning Disorders = 医学定義 …… 学習障害

Learning Disabilities = 教育定義 …… 学習の一部の能力の欠如

Learning Difficulties = 教育定義 …… 学習の一部の苦手さ

— 現在の考え方 —

Learning Differences = 教育定義 …… 学び方の違い



「僕は（私は）馬鹿だから分からないんだ！」と自分を過小評価する子どもが少なくありません。やり方次第で分かるようになるのに、その子どもの特性と勉強方法を、周りの大人が分かっていないのです。

学習困難と学習障害

かつては、「学習不振児（低学力児）＝学習障害の子ども」と誤解されていたことも多かったように思います。また驚くことですが、数十年前までは「**知的障害＝学習障害**」と誤解して